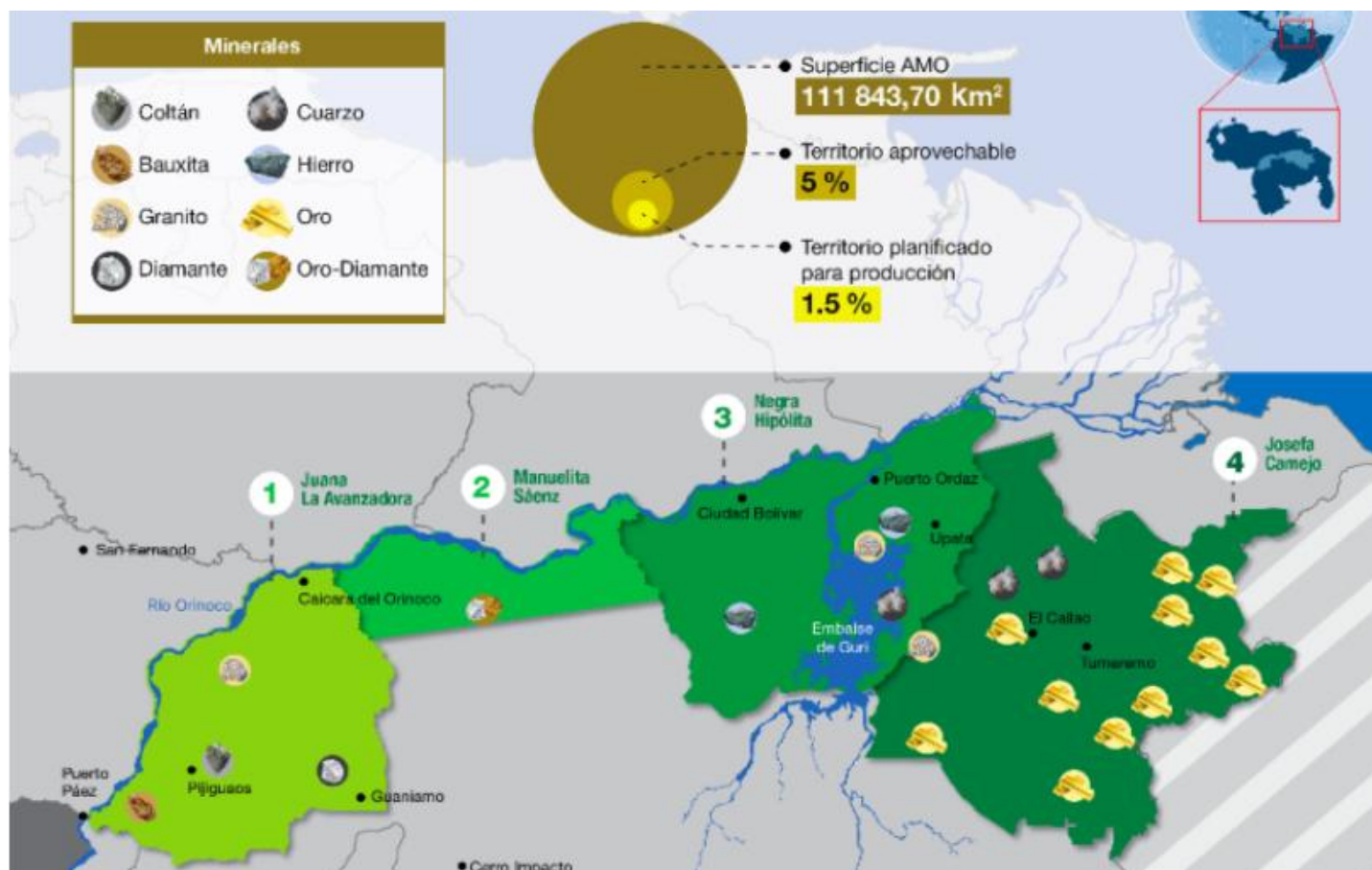




（出所）Transparencia Venezuela“ベネズエラの違法 GOLD 市場の実態調査を紹介（写真はオリノコ鉱物地帯）”

ベネズエラの違法 GOLD 市場

ベネズエラの GOLD 経済は構造的に犯罪化

株式会社ベネインベストメント
松浦 健太郎

6 月12日 米軍とベネズエラ当局の連携により犯罪組織 Tren de Aragua のトップ、通称 Niño Guerrero がボリバル州で殺害された。

米国政府はベネズエラの鉱物資源に高い関心を示しており、ベネズエラ暫定政権と協力し、鉱物ビジネスから違法組織を排除しようとしている姿勢が見える。

本稿では、独立系国際 NGO「GI-TOC」のレポートを基にベネズエラの違法 GOLD 経済の実情とトレンドを紹介し、今後の注目点を考察する。

GI-TOC は、ベネズエラの GOLD 経済について「構造的に犯罪化されている」と分析している。

これは、単に一部の違法採掘者や密輸業者が存在するという意味ではない。政治関係者、軍・警察、犯罪組織が結び付き、GOLD の採掘、取引、輸送、輸出、資金化の各段階で関与が存在する経済スキームが構築されているという意味である。

この違法経済の中心となるのが、ベネズエラ南部のオリノコ鉱物地帯である。同地域は、GOLD、ダイヤモンド、鉄鉱石、ボーキサイト、コルタンなど様々な鉱物資源が存在する一方、長年にわたり違法採掘、武装組織、地元犯罪組織、軍・警察関係者の関与が指摘されてきた。

ベネズエラの石油収入が大きく落ち込む中、GOLDは国や権力ネットワークにとって重要な資金源となってきた。GOLDは、少量で高価値であり、国境を越えて移動しやすい。

さらに、溶解することで原産地を曖昧にしやすいため、制裁下では、外貨獲得、決済、資産保全の手段として機能しやすい。このため、GOLDは違法ビジネスの温床になりやすい性質を持っている。

違法 GOLD フローの逆流

GI-TOC レポートで最も興味深い点は、違法 GOLD の流れが変化しているという指摘である。

元々ベネズエラ産 GOLD は国外へ流出するものと見られてきた。ところが、GI-TOC によると、近年はブラジルやガイアナからベネズエラへ GOLD が流入する動きが強まっているという。

GI-TOC は、この変化の背景にあるのが、ブラジル側での規制・監視強化と指摘している。

ブラジルでは2023年以降、GOLD 購入地点の監視や取引規制が強化され、違法採掘由来の GOLD を国内市場で売却しにくくなった。その結果、ブラジル国内で処理しにくくなった違法 GOLD が、国境を越えてベネズエラへ向かう流れが生まれたと GI-TOC は分析している。

ガイアナについても、従来はベネズエラ産 GOLD がガイアナへ密輸され、現地産 GOLD に混ぜられて国際市場に流れる構図が指摘されてきた。

しかし、近年はガイアナ側からベネズエラ側へ GOLD が流れるケースも確認されているという。

つまり、ベネズエラは「違法 GOLD を国外に売る国」であると同時に、「周辺国の違法 GOLD が流入する国」にもなっている。

この変化は、違法 GOLD 市場は適応力が高く、一国の規制強化だけで市場を消滅させることが容易ではないことを示唆している。

なぜベネズエラに GOLD が集まるのか

では、なぜブラジルやガイアナの違法 GOLD がベネズエラに向かうのか。

GI-TOC は、ブラジルの規制強化に加えて、ベネズエラ側の買い手が違法 GOLD を引き寄せるために価格面で好条件を提示していることが要因と指摘している。

同レポートでは、ベネズエラ側の買い手が国際価格を上回る価格で GOLD を購入しているとの見方が紹介されている。

一見すると、国際価格より高く買うことは損に見える。

しかし、ベネズエラ側の買い手が GOLD を購入する際に使用する資金の出元が合法的なものではなく、表立って使用することが出来ない資金で、マネーロンダリングを目的に GOLD を購入するとしたらどうだろうか。

違法 GOLD 市場では、資金洗浄、制裁回避、政治・軍事ネットワークの維持、密輸ルートの支配といった要素が絡む。

買い手にとって重要なのは、安く仕入れて高く売ることだけではない。出所の不明な現金や暗号資産を、保有・移転・換金しやすい GOLD に変えること自体に意味がある。

前述の通り、GOLD は国境を越えて移動しやすく、第三国で売却したり、輸入決済や政治資金、賄賂、資産保全、マネーロンダリングに使用したりすることができる。

つまり、GOLD は制裁下でのマネーロンダリング手段、資産保全手段、非公式な決済手段として機能するため、多少のプラス α を支払うとしても GOLD を購入する合理性が存在する。

また、高値で買い取ることで、ブラジルやガイアナの密輸業者をベネズエラ側へ引き寄せることができる。

密輸には輸送コスト、国境通過リスク、賄賂、押収リスク、犯罪組織への上納金など通常取引では発生しない支払いが伴う。国際価格を上回る価格は、こうしたコストを補い、ベネズエラへ運ぶインセンティブを与える。

このようにベネズエラ側の買い手とブラジル、ガイアナ側の売り手の利害が一致することで、GOLD がベネズエラに流れていると予想される。

Boa Vista を中心とする物流ルート

GI-TOC レポートは、違法 GOLD の物流ルートにも注目している。

特に重要なのが、ブラジル北部ロライマ州の州都 Boa Vista である。

同市は、ベネズエラ国境とガイアナ国境に近く、道路網や航空ルートへのアクセスもあるため、違法 GOLD の集積・中継拠点になっているとされる。

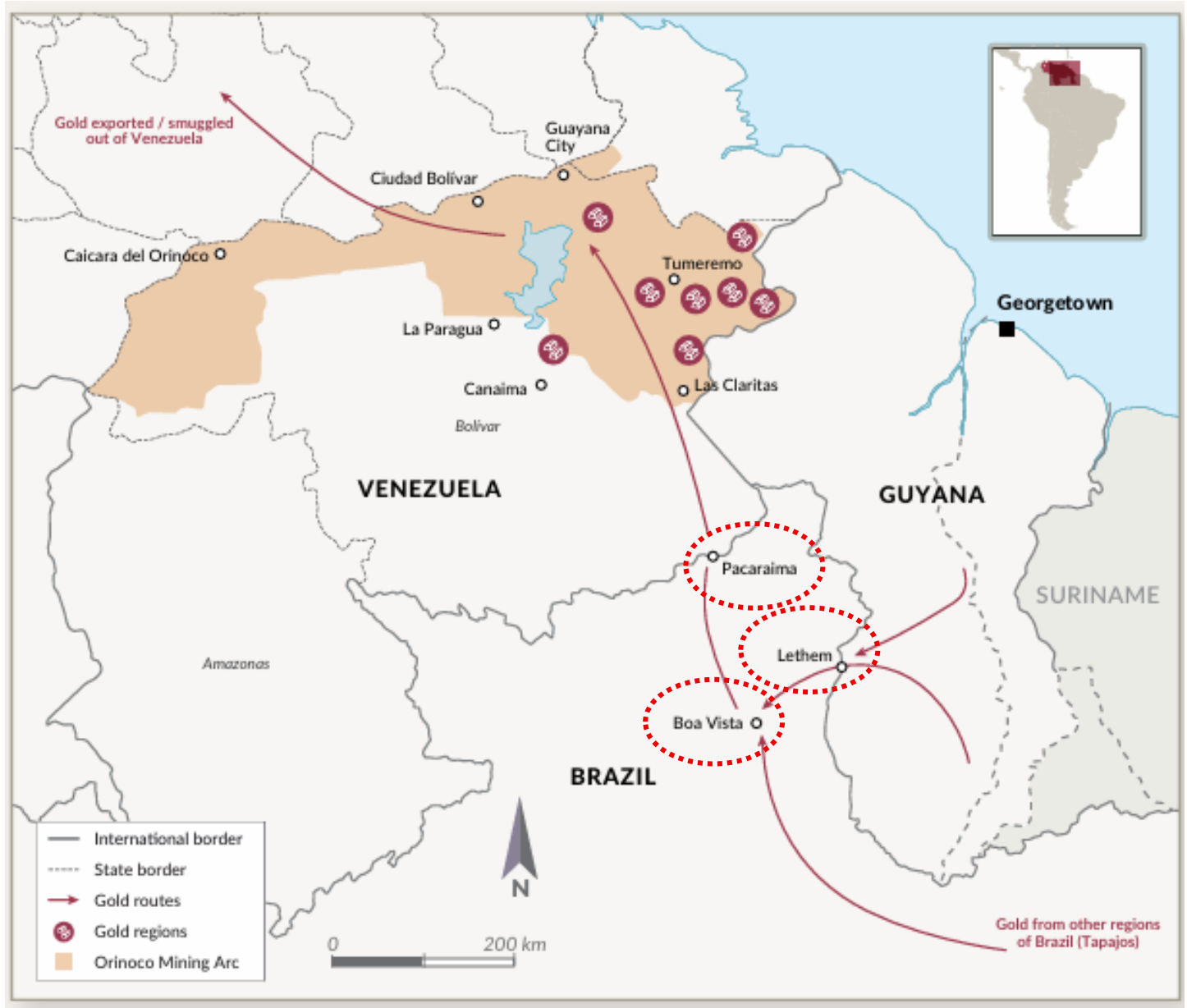
ブラジルの違法 GOLD は、アマゾン奥地の採掘地から小型航空機などで運ばれ、Boa Vista 周辺に集められる。その後、トラックや車両でベネズエラ国境の Pacaraima 方面へ運ばれ、ベネズエラへ入る。

ガイアナ方面では、Lethem から Boa Vista へ向かうルートが重要とされる。つまり、Boa Vista は、ブラジル、ガイアナ、ベネズエラを結ぶ違法 GOLD 物流の結節点となっている（ブラジル、ガイアナの違法 GOLD の流れは次ページの図参照）。

違法 GOLD の輸送には、小型航空機、非合法滑走路、トラック、河川ルートなどが使われる。

違法 GOLD の輸送は、国境管理の弱い地域や、国の統治が行き届かない河川、森林、未舗装道路、非公式滑走路を通じて人・物・資金が移動する。そのため、違法 GOLD の取り締まりは、ブラジル、ガイアナ、ベネズエラをまたぐ地域的な監視が必要と言える。

図：ブラジル、ガイアナからの GOLD 流入経路



(写真) GI-TOC “SHIFTING AMAZON GOLD FLOWS”

GOLD 市場を支配する犯罪ネットワーク

GI-TOC は、ベネズエラの違法 GOLD 市場について、地元シンジケート、武装組織、ゲリラ、軍・警察などの治安関係者、違法両替商らが複雑に絡み合っていると分析している。

ボリバル州では、Sindicatos（シンディカトス）と呼ばれる地元犯罪組織が、採掘地、鉱山労働者、輸送ルートを支配しているとされる。

これらの組織は、採掘者から手数料や保護料を徴収し、独自の規則によって鉱物地域を管理する。採掘者にとっては、国ではなく犯罪組織が事実上の統治者となっているケースもあるという。

また、コロンビア系ゲリラ組織である ELN や、ベネズエラ発祥の Tren de Aragua、ブラジルの PCC や Comando Vermelho など、国境を越えて活動する犯罪組織も関与しているとされる。

これらの組織は、採掘地の直接支配だけでなく、武器、燃料、食料、労働者、GOLD の輸送、現金化、国境通過など、違法 GOLD 経済の周辺ビジネスにも影響力を持つ。

そして、深刻なのは、これらの地元シンジケート、ゲリラや犯罪組織が必ずしも国と対立しているわけではない点である。

GI-TOC は、ベネズエラの GOLD 市場は、犯罪組織と一部の軍・警察関係者、地元権力者が結託しながら市場を運営していると分析している。

このため、違法 GOLD 対策は、単に犯罪組織を摘発すれば解決する問題ではない。

GI-TOC は、鉱物地域の統治構造そのものを変えなければ、別の組織や別の関係者が同じ役割を引き継ぐ可能性が高いと指摘している。

違法 GOLD の資金化と暗号資産

最後に違法 GOLD の資金化について紹介したい。

GOLD は、単体で価値を持つためベネズエラ国内で軍・政治ネットワークの資産として保有される場合もあれば、第三国に輸出される場合もある。

過去には、トルコや中東、中国などへベネズエラ産 GOLD が流れていると指摘されてきた。GOLD は溶解・混合が容易であり、原産地を曖昧にすれば、国際市場に再び流すことができる。

また、レポートでは、暗号資産、特に米ドル連動型ステーブルコインである Tether が GOLD 取引に使われている可能性にも触れている。

暗号資産は、制裁や金融監視を回避する上で、有用な手段となり得る。

GOLD は現物資産であると同時に、暗号資産を介することで、資金移動の匿名性が高まり、決済スピード、柔軟性が高まる。

制度面の整備だけでは投資拡大は困難

このようにベネズエラの GOLD 経済は犯罪ネットワークで構築されている面が大きい。しかし、米国政府の介入を受けて、この構造に変化が起り始めている。

米国政府はベネズエラの鉱物ビジネスに強い関心を示している。

2026年3月に米国の Doug Burgum 内務長官がベネズエラを訪問し、同国の鉱物産業の開発について暫定政権と協議を行った（「[ベネズエラ・トゥデイ No.1340](#)」）。

そして、Burgum 内務長官の帰国翌日に米国はベネズエラ鉱物産業への投資を許可する制裁ライセンスを発行した（「[ベネズエラ・トゥデイ No.1341](#)」）。

暫定政権は、米国の意向に沿う形で鉱物法の改定に着手し、4月に外国企業の投資を促進する方向で鉱物法が改定された（「[ベネズエラ・トゥデイ No.1355](#)」）。

このように制度面では鉱物ビジネスへの参入準備は一定の進展を見せている。

しかし、前述の通り、鉱物ビジネスには、違法採掘者、地元シンジケート、軍・警察関係者、犯罪組織など多数の利害関係者が存在しており、外国企業が安心して参入できる市場ではない。

そのため、制度面の整備だけでは外国企業が鉱物ビジネスへの投資を拡大することは困難と言える。

米国政府もそれを認識しており、この認識が昨今の Niño Guerrero 殺害オペレーションの一因だった可能性は考えられる。

なお、米国政府は、Niño Guerrero 殺害を発表した後に、Tren de Aragua のような組織に対して、今後とも攻撃的な対応を取る可能性について触れている。

また、Niño Guerrero 殺害とほぼ同時期にベネズエラ軍はボリバル州 Las Claritas 周辺（重要な GOLD 採掘地帯の一つ）を含むオリノコ鉱山地帯で、違法 GOLD 採掘を支配する集団に対する軍事作戦を展開している。

他、暫定政権は26年1月～3月にかけて軍上層部を一気に交代させ、指揮系統を一新した。これにより、軍高官が関与する違法 GOLD 経済に一定の混乱を生じさせたことだろう。

上記の米国と暫定政権の治安作戦は、鉱物ビジネス正常化に向けた犯罪ネットワーク排除の一環として理解できる。

ただし、違法 GOLD 市場は適応力が高く、一見正常化したように見えても支配主体や商流を変えながら存続する可能性がある。

暫定政権と米国政府が、長年続いてきた違法鉱物ビジネスのスキームを解体し、米国企業・米国市場がアクセス可能な形に鉱物産業を再編することが出来るかが今後の注目点と言えるだろう。

以上